西東京市市民協働推進センター

平成27年度第2回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成27年5月19日(火)午後7時～8時30分
■開催場所：イングビル3階第1、2会議室
■出席委員：池田委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中(友)委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員
＜以上13名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、池田事務局長、丸木福祉活動推進課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、4月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：地域協議南部地区会議とは、昨年度から参加している委員はご存知と思うが、西東京市の地域コミュニティ基本方針に則ってモデル事業として南部地区で行っているものだ。ゆめこらぼは昨年この会議にオブザーバーとして参加したが、今年度は会議メンバーとして協議体に参加していると理解している。地域協議体の設立準備会にゆめこらぼがNPO分野から選出されたということは、一般のまちづくり系のNPOは入っていないということか。

事務局：ゆめこらぼはNPO分野を代表する形で選出されている。各分野から1団体が選出され、地域自治分野、防犯分野、子育て・教育分野、地域支援分野、福祉分野、NPO分野、行政機関の合計7分野から出ている。

委員長：全国的に支援のお金が流れ動いている中で、NPOと地縁組織との連携と協働はホットなテーマだと思う。

2. 5月以降の事業について

事務局より、5月の実施事業、研修などについて説明があった。

委員長：ノーマライゼーション西東京の会は「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマとしたまちづくり円卓会議から生まれた会である。

3. 今年度の予算について

事務局より、予算について説明があった。

4. 運営委員会について

事務局より、運営委員の名簿について副委員長を追記した旨の説明があった。

5.運営体制について

事務局より、事務局の勤務体制について説明があった。

委員長：勤務シフト表ではなく、役割分担表を提出してほしかった。

委　員：開館時間の変更による市民の反応はどうか。

事務局：間接的に開館時間が短くなったことで影響があるとの声が耳に入ってくる程度である。実際、6時を過ぎるとほとんど来訪者はなく、土曜日も少ない。

事務局：従来は夜の勤務が短い時間だったため、職員に一つの事業を担当してもらうことができなかったが、今では一つの事業を任せられるようになった。しかし、事業の数が多いので、自転車操業的であることは否めない。

2. 審　議　事　項

１．前々回の会議録について

委員長：昨年度第11回運営委員会の会議録を確認してほしい。委員が指摘した部分を下線で示し変更している。

委　員：変更を希望した委員がどういう意図で、どのように変更したか説明してほしい。

委　員：円卓会議のところに関しては、自分の発言を中心にやりとりが違うのではないかということで、発言自体の訂正を要求した。他の部分は補足することにより読みやすくなるのではないかと思われる箇所に訂正を加えた。運営委員を退任される方の名前を出すべきではないかと考え、要望した。

委員長：フルネームではなくまた、特定の団体名でもなく、何々氏という形で記述することにする。

委　員：かなり長く追加している箇所があるが、そのいきさつを教えてほしい。

委　員：前の記述は私の趣旨と違ったので修正を加えた。

委員長：ほかにご意見がないようなので、確定稿とする。

２．前回の会議録について

委員長：第1回運営委員会会議録について伺いたい。

委　員：前回話合いをして出た方向性に沿って第1回会議録はつくられているのか。

事務局：前回の説明通り、流れがわかるように各委員の方の発言のプロセスと結論がわかるような形で作成した。

委　員：前回、欠席された委員に読んでいただき、どのように理解されたのか聞いて参考にしたい。会議録は市民にこの会議の内容を知ってもらうのが目的だと思うが、前回の話合いの内容がきちんと理解できるかが重要だと考える。確認する良い機会と考えたので、このような提案をした。

委員長：今ここで確認していただくのは時間的に厳しいので、欠席された方で読んでなにか印象としてあれば教えてほしい。

委　員：ざっと読んだ印象では、要点ではなく逐語に近いと思う。言葉のニュアンスが残るのでわかりやすいとは言いにくい内容である。

委　員：前回の議事録を読んだ印象として、かなり主観が入っており、その主観により情報の取捨選択がされているように感じた。議事録を作成者の主観で情報を取捨選択しない方がよいと感じた。

委員長：資料を含めてどこまで提供するかはよく議論に上がる。ある程度読んでも完璧に理解することは難しいと思うが、会議録を公開している以上、限度を見極めなければならないと考え

る。あくまでも公開をしていく前提でこの運営委員会が成り立っているので、前回決めたルールに沿った目で見てほしい。副委員長の名字は出しても構わないので訂正してほしい。

委　員：私に関する委員長の発言部分に関してだが、事情を知らない人にとっては唐突な文章に感じるのではないかと思うので、わかりやすさを前提としているのならば訂正が必要ではないかと個人的には考える。

委員長：「今回はご自身の発言箇所に加筆修正をしていただき、ご本人の発言部分以外の箇所にもわかりやすくなるように手をいれていただければと思う」に変更してほしい。

委　員：会議録は事前に事務局から渡されるので、その時点で加筆修正を伝えてはどうか。

委員長：この場で加筆修正を行うことは、記録にも残るので正規のやり方だと認識している。事前に正副委員長は会議録を確認しているので事務局に意見は伝えている。明白な訂正以外の指摘はこの場で発言していただき、次の委員会に加筆修正した会議録を配布していただく方が良いと思う。

3. 協　議　事　項

1. 協働のまちづくりワークショップについて

事務局より、協働のまちづくりワークショップ（案）について説明があった。

委員長：これまで「協働を考えるシンポジウム」と「行政職員と市民活動団体の懇談会」と二つに分けていた事業を一つにしていく新たな取り組みとなっている。私も打ち合わせに参加している。当初は仮説を立てて、それに対してどのようにコミットしたら課題が解決できるか話をしていたが、事務局から、子どもの貧困問題から子ども食堂があちこちで展開されているという中で、西東京市でも子ども食堂が立ち上がると聞いた。この事例は、新しい課題に対する西東京でのチャレンジだと思うので、ワークショップの場を協働の場としてこの事例を取り上げてみたいと考えている。

委　員：参加者 40 人の職員と市民団体の割合はどうなっているのか。

事務局：原則は、半々で行政職員 20 人、市民活動団体 20 団体と考えている。

委員長：中間管理職の職員が参加するというのは、行政側からの意見か。

事務局：行政からも言われたが、ゆめこらぼとしても具体的につなげるためには中間管理職の参加を考えていた。

委　員：市報で広報を行い、周知するべきではないか。この事例を紹介するのであれば、子ども食堂への関心は高いと思うので、ゆめこらぼでは把握していない団体へも声かけをした方が良いと思う。

委　員：事業の紹介をすることではなく、協働の事例として紹介するのだと思う。募集は 20 団体ということだが、希望が多い場合どのように選ぶのか。

事務局：多くなるようであれば、先着順にすることを考えている。

委員長：行政との懇談会は、これまでは登録団体のみの参加だったのか。

事務局：未登録団体にも声がけしていたが、実際に参加しているのは登録団体である。

委員長：強く広報しないということを意図はしてないのか。ウェブサイト、フェイスブックページへの掲載はできるのか。公開するかどうか検討をお願いしたい。

事務局：市に掲載できるフェイスブックページはない。

委　員：委員が関心のある人に直接声をかけるのがいいと思う。

委　員：関心がある人を知っているわけではないが、繋がりたい人がいるのではないかと思うので、その辺が気になる。

委　員：西東京わいわいネットや子どもの貧困は一つの題材であって、協働を考えるための材料なのか。

委員長：西東京わいわいネットとか子ども食堂は題材であり、事例紹介としての扱いとなる。立ち上がったばかりと聞いているので、皆さんの知恵を集めて良い事例にしていくための素材という位置づけである。

委　員：とてもいい企画だと思う。NPO 企画提案事業の審査に参加したことがあるが、行政は点数をつけるだけだった。このような機会を通して、NPO と協働を進めるためにも行政と交流し、活動への理解をしてもらえることが必要だと思う。

事務局：ゆめこらぼがあまり知られていないので、認知度を上げることが課題であるため、今期は広報が重点事業となっている。広報はするべきだと考えている。

行政の研修も兼ねた事業なので、協働コミュニティ課と調整し、可能な限り広報していく方向で対応したい。

委員長：事例紹介する分野にこだわることで、関連担当課だけに偏らないようにゆめこらぼや協働コミュニティ課からも是非説明をしてほしい。今回は、この事例を通して協働のシュミレーションをすることに重きを置いているので　子どもの貧困の担当課だけが集まらないように説明してほしい。

委　員：今年度から「協働を考えるシンポジウム」と「行政職員と市民活動団体との懇談会」を「協働のまちづくりワークショップ」に統合するとあるが、平成 24 年度から昨年まで「行政職員と市民活動団体との懇談会」への参加は市民活動団体に限定されていた。今回も参加は市民活動団体に限るべきなのか確認したい。一般市民や企業の参加も考えた方が良いのではないか。

委員長：職員研修という位置づけもあるので、これまでのご意見も踏まえたうえで、協働コミュニティ課と調整する必要がある。

事務局：今回の企画は、今後 3 年間を見据えたうえでのきっかけの 1 回目となる。3 年後には充実させていくという長期的スパンで検討させていただければと思う。

委員長：ゆめこらぼ自体のミッションとしては、行政と NPO、行政と市民だけの協働ではなく、市民と市民、行政と企業の協働もあり得る協働推進ではある。スキームのなかで職員研修という位置づけの中で調整をお願いしたい。「協働のまちづくりワークショップ」は平日開催だが、運営委員の皆さんにも参加していただきたい。また企画内容が決まり次第、報告をお願いする。

2. 広報戦略について

事務局より、広報戦略について説明があった。

委員長：広報と一口に言っても団体によって目的がいろいろだと思うが、ゆめこらぼにおける広報の目的を皆さんに出していただき、広報の目的を再確認したい。NPO の広報とゆめこらぼの広報との違いなどもあれば出してほしい。

委　員：利用者対象と行政対象の二元的に広報する必要があるのが、一般の広報と違うと思う。

委員長：なぜ広報をしなくてはならないかという大前提としての目的について議論したい。ゆめこらぼは中間支援組織であり、協働推進をする組織としての広報の目的を整理したいと考えている。

委　員：事業を中間支援として行わなければならないものがあると思うが、その事業によっても広報のスタンスや目的が違うと思う。中間支援組織としての広報について話すのか、個別の事業の広報について話すのかを分けて考えた方が良いと考える。

委員長：この段階は中間支援組織としての広報をどうするか、ミッションをどう伝えていくかを考えてほしい。

委　員：ゆめこらぼと、どう関われば良いのかということではないか。ゆめこらぼ自体がNPO団体向けにわかりやすければ、登録団体や相談などの利用者が増えると思う。

委　員：ゆめこらぼを利用すると、どんなメリットがあるのかがわからない。

委　員：協働を推進しているということを市民の人に知ってもらうことも広報の目的だと思う。

委　員：協働すると、どんなに私たちにとってメリットがあるのかを伝えることも目的ではないか。

委　員：ゆめこらぼのミッションを達成させるために広報があると思う。そのための広報の再確認なのか。

委員長：ミッションを達成するのは大前提だが、今はいろいろいな意見をいただき整理したい。

委　員：ゆめこらぼの本来のミッションは何か。協働を進めることがミッションなのか、協働推進の先には何があるのか。

事務局：ゆめこらぼのミッションには、協働を推進することと市民活動の支援をすることの2つがある。

委員長：協働を推進することと市民活動を支援することで何かを目指すのがミッションだと考える。一般的に言えば、協働推進自体は手段なので、地域課題を解決するとか社会課題をどうするとかいうものがミッションとなると思う。

委　員：協働を呼びかける難しさを感じている。対象者がいろいろであり、協働はいいですよと言ってもなかなか伝わらない。もっと具体的な事例などで参加していただき、協働を体感していただくのはどうか。あまり大きい理念で人を集めるのは難しいと思う。どこに対象者がいて、どこでチラシなどを読んでくれるかを個々に考えていかなくてはならない。

委　員：ゆめこらぼが何かということが明確でなければ、どのようなことをしているかが一般の人には伝わらないと思う。ゆめこらぼがどういうところかということを周知する必要がある。支援組織を探している人たちにとっても、ゆめこらぼの存在がわからないのではないか。

委　員：既存の市民団体と行政との協働となると思うが、一般市民が何を求めているのかを知り、市民団体をどう結びつけるのかも考える必要がある。

委　員：すでに協働をしてみたら、全くメリットがなかったと感じる人もいると思う。協働のイメージチェンジが必要ではないか。

委員長：いい意味でもイメージの構築ということだと考える。ミッションを果たすための目的の再確認だが、利用団体や行政に対してわかりやすく具体的にゆめこらぼの存在意義を伝えることだと思う。市民のニーズを知って団体とのマッチングをするために、広報が必要である。意義・メリットをわかりやすくというあたりが大きな目的ではないか思う。2番目にはゆめこらぼの目的を踏まえた中で、ゆめこらぼが伝えられるメッセージは何かということである。

委　員：協働の必要性ではないか。

委　員：以前の「ゆめはコラボで加速する」というキャッチコピーは、印象的ですごいと思った。
委員長：現在のキャッチコピーは「あなたのやってみたいを応援します」だ。
委員長：協働の必要性というご意見が出ている。協働のネガティブな側面とポジティブな側面の両方のご意見が出ている。
委　員：ゆめこらぼ自体の機能、ゆめこらぼではこういうことができるという機能を伝えるのはどうか。
委　員：協働を手段として10年後の西東京、30年後の西東京、50年後の西東京をどう作るかというようなビジョンが伝われば良いと思う。
委　員：協働の具体的な事例とかを具体的に伝えていくのはどうか。
委　員：個人的な意見だが、「いい町に住みたいなら、自分がいい町のまちづくりに参加しよう」と言って活動してきたが、それが結果として協働という形で表れてきている。あまり協働とは言わないようにして、結果的に協働をしていても自分は自分がやるべきことをしているという意識で活動している。
委　員：協働は大変である。そこをゆめこらぼが支えるというメッセージを伝えるのはどうか。ネガティブ・イメージからポジティブ・イメージのメッセージを伝えることで、ゆめこらぼがどのようなところであるかが伝わりやすいと思う。
委　員：個人や団体がやりたいことを取りまとめ、支援するのがゆめこらぼだと思う。
委員長：ゆめこらぼのミッションは市民活動を支援することであり、協働はあくまでも手段なので、なにもかもを協働しなくてはならないのではなく、必要なら協働するということが協働である。今、市民が参加するという「参加」がキーワードになっている。一般市民に対して、参加していくことの必要性を促していく。NPOや市民活動団体に対して、組織を開くことを促していく。開くということは、いろいろな方々を巻き込んで行くことで大切なことと考える。多様性を認めて、多様な参加を促していくこと、キーワードとして参加の必要性を促していくことが大事であると考える。
次回は、今回の話し合いをおさらいした上で、グループワークをしたいと思う。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：6月16日（火）19時～21時
会場：イングビル3階　第3、4会議室